

平成30年度 佐賀県立佐賀商業学校定時制 学校評価結果

1 学校教育目標 商業人として必要な知識と技術を習得させ、基本的なマナーや社会的モラルを身に付けさせるとともに、何事にも主体的に取り組む生徒の育成を目指す。	2 本年度の重点目標 ①より高い進路実現 ②授業と部活を真剣に ③基礎学力向上及び高度資格取得への挑戦 ④地域社会へ貢献 ⑤心豊かな人間(知・徳・体)バランスの取れた生徒の育成
--	--

達成度 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①より高い進路実現

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・授業時間数の確保 ・授業への集中 ・基礎学力の向上	・すべての授業の実施率が80%以上にする。 ・チャイムからチャイムまでの学習態度を習慣づける。 ・早い時間帯に登校した生徒に対し、自主的な学習を促す。	・授業時間の確保と、授業の振替を確実に行う。 ・授業と授業の間に休み時間を設定し、50分を有効に活用する。 ・チャイムからチャイムまでの学習態度を習慣づける。 ・生徒情報交換会を定期的に行い、生徒理解を深め、個に応じた適切な指導を行う。 ・始業前に教室を回り、生徒への声かけを行う。	A	・授業時間の確保と、授業の振替を行い、授業実施率は80%を超え、目標を達成することができた。 ・生徒情報交換会をほぼ毎月実施したので、職員間の共通理解が進み、このことが学習指導にも活かされている。	・早い時間帯に登校した生徒が、自発的な学習に取り組む仕組みづくりが必要である。 ・個別の細やかな指導のためにも、教育相談部と連携しながら、生徒情報交換会を継続してきたい。
	○進路指導	・生徒全員の進路意識向上 ・自己の将来ビジョン構築	・進学希望者・就職希望者が、進路希望に応じた情報収集を行い、年間の日程を踏まえて準備を進められるようにする。 ・卒業予定者以外に対しては、進路についての情報収集を支援する。	・卒業予定者の進路希望や適性を把握し、職業安定所、企業等事業所、アルバイト先などと連携しながら、生徒個々に情報提供を行っていく。 ・就職セミナーや学校説明会などへの参加を促し、時機を得た進路指導を進めることによって、将来への意識を高める。 ・進路模試を実施し、生徒個々の学力的なフォローアップに努める。 ・専門学校等の協力を得て、様々な職業があることやその職業に就くための方法などを知る機会を作る。	B	・就職・進学ともに、生徒の希望する進路実現ができた。生徒の適性をよく把握している担任との連携もうまくいった。さらに、雇用環境が改善していることも後押しした。 ・進学指導では、情報誌の提供など、生徒の知る機会を増やすことができた。 ・課題としては、就職対策に取り組み始める時期がやや遅れたこと、基礎学力やコミュニケーション能力の向上などがあげられる。	・学力の向上については、次年度から実施される「高校生のための学びの基礎診断テスト」を活用することで計画的に改善したい。 ・コミュニケーション能力については、日頃のからあいさつやマナーなどを全教職員で指導することで、少しでも身につけられるように取り組みたい。 ・就職活動への取組を始める時期については、行事予定を考慮するなど、生徒も職員も早めに動けるように改善を図りたい。

②授業と部活を真剣に

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○意欲向上への取組	・校内の環境整備 ・活動意欲の向上 ・帰属意識の醸成	・校舎内の環境を整えることにより、学習への集中力を高める。 ・面談等を通して、学校生活での具体的な目標を持てるように支援する。 ・定時制通信制体育大会への参加に向けて、学校を代表するという意識を高める。	・掃除時間を有効に活用し、決められた箇所以外でも率先して掃除を行うことができるようにする。 ・学年ごとのコミュニケーションを図り、それぞれの役割を果たしていくこととする意識を高める。 ・集会など機会があるごとに学校生活上での気づきを話題にして、それを自分に置き換えて考えられるように促す。 ・生徒各人が自分と向き合う時間を確保する。 ・公式戦を通してチームワークを図り、勝負にこだわる強い心をもって望むよう促す。	B	・掃除時間の有効活用に関しては、残った時間をすべて全学年が一斉に廊下を磨きだすといった光景が見られるなど、活動意欲の向上が見られるようになった。 ・全校集会で話を聞く姿勢や態度が良くなってきている。今後は集会時における携帯電話の取扱について促していきたい。 ・定時制体育大会に関しては、年に一度の対外試合であり、また学校を上げての取り組みであることから、生徒一人ひとりが一生懸命に活動した。	・全員掃除については、今までと同様に職員も一緒に活動することで、生徒の意識を高めていくようにしたい。 ・協働することの大切さを機会があることに伝えていく。 ・部活動の意義を生徒に伝えるとともに、集団の一員としての意識を持つよう指導する。 ・一人ひとりが与えられた役割を果たしていくことで、チームや学校への帰属意識を高められるようにしたい。
	○授業の充実・改善	・「わかる」「できる」が実感できる授業づくり ・興味関心を持たせるための教材づくり ・積極的に学ぶための工夫	・具体例を示すことで興味・関心を持たせつつ、知識や技能の定着に向けた工夫を行う。 ・学習用PCや電子黒板を有効に活用をする。 ・少人数の利点を生かし、習熟度別の指導を行う。	・教師相互の授業参観、合評などを行う。 ・新たな教材とともに、既存の学習コンテンツやオンライン教材なども積極的に利活用し、本校に合った指導体系を構築する。 ・机間巡視等によって生徒をよく観察するとともに、発問などをとおして、学習上のつまずきを発見し、それらに対する対応を図る。	B	・学校開放週間は保護者参観だけでなく、職員も相互に授業の参観をし感想を伝え合うようにした。 ・電子黒板はHR時の生徒への連絡を始め、授業に有効に活用されている。 ・夏季休業中は成績不審者への指導を5日間実施した。また、生徒の進路希望や興味関心に応じて、個別の指導を行った。	・授業の工夫改善のためにも、授業の相互参観は日常的かつ積極的に行うようにしたい。 ・今後学校に通う意義、学習する意義について、根拠強く指導する必要がある。 ・全体としては真剣で落ち着いた授業態度であるが、遅刻を繰り返す生徒が数名おり、また、簡単に欠席する生徒もいる。個別に強く指導してきたい。
	○部活動の充実	・部活動加入率 ・活動状況	・定時制通信制高校総体への参加数を確保し、成果の向上を図る。 ・日々の部活動への参加を通して協調性やリーダーシップを身につけさせる。	・期間限定で校時を工夫し、部活動の時間を確保する。 ・全体指導や個別ガイダンスを通して、エントリー可能なチームを編成する。 ・部活動の時間は、全職員が指導にあたる。	A	・定時制通信制体育大会にほぼ全員が参加し、練習も充実していた。 ・個人活動において、佐賀県総合文化祭に作品を出品する生徒も見られた。 ・部活動関係予算の確保は大きな問題である。 ・生徒数の減少によって団体競技の部活動のチーム編成が難しくなっているため、検討が必要である。 ・部活動の時間確保が難しいこと、顧問教員数が限られていること、各種目の専門指導者の確保が難しいこと、等が課題である。	・今後も全員で活動することで学校の活性化につなげていきたい。 ・現実的な運用面での課題が山積しているが、他校の状況も同様であることから、連携を取りながら継続して改善や要望をしていきたい。

③基礎学力の向上及び高度資格取得の挑戦							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自発的な取組の喚起 意欲向上のための工夫 基礎学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を向上させる。 将来のための知識・技能の定着を図る。 適切な教材の開発及び伸びが実感できる評価手法の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や総合的な学習の時間等を活用し、自分自身で課題を見つめ、それを解決できるように促す。 各教科で基礎的な内容の学習講座を開講する。 各教科で適切な教材を活用し、年間を通じて伸長度を測れるようにする。 就職試験等で問われる一般常識的な内容については、各教科の授業において小テスト等を活用し、学習意欲を持たせる。 生徒への適切なフィードバックを行い、自己評価に役立てられるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から基礎学力向上の時間を設定した。年間75時間程度の実施だったが、全生徒と全職員が学習意欲向上に対する機運は醸成できた。 県下一斉就職模試の受験者の平均点は151点であり、昨年度の144点から7点アップした。 各教科での生徒学力の伸長度把握や課題のフィードバックは十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力向上については、年間数回の実施では効果が少なく、継続的集中的な時間の設定が必要であるので、年間行事予定に組み込むことで改善を図る。 来年度からは「学びの基礎診断」が始まるので、その十分な活用を目指していきたい。 生徒個人の学習特性や学力差への対応はなかなか難しいが、できることをつつ積み上げていきたい。
	○高度資格取得の挑戦	<ul style="list-style-type: none"> 商業系検定の受験 	<ul style="list-style-type: none"> 商業に関する科目を選択している生徒に対して、適切に検定へのチャレンジに導き、目標到達のための努力を支援する。 合格率70%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業における到達度を測定する一つの材料として検定を位置づけ、検定取得に意欲が生じるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 検定の種類にもよるが、概ね目標を達成できた。 検定に合格した生徒は成就感や達成感を得ることができ、自信につながっている。 検定の合格率と生徒の授業出席率が比例関係にあるため、休みがちな生徒へ出席を促しどのようにして意欲をもたせるかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得は生徒の意欲向上のために有用であるので、今までと同様に学校全体で支援していきたい。 生徒の出席率を向上させ学習意欲を高めるために、全職員での取組を継続していく。
④地域社会へ貢献							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 職業観や勤労観の育成 自身の生き方・あり方について考える姿勢の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 職業を中心に据えた自分の生き方・あり方を明確にしている。 地域社会で働くことの意義を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職が身近なものと思われよう卒業生による講演会等を年1回実施する。 ホームルーム活動、個人面談等において、自分の生き方・あり方について考える機会を作り、目標を持って努力できるように支援する。 生徒の適性や生活・経済状況に応じ、アルバイトを紹介することによって勤労観の育成を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は、将来の進路実現のために何をすべきかがわかり、大変参考になったようだ。 卒業生による講演会は好評であり、質疑応答でも活発な意見交換が行われた。 多様な生徒があり、企画の効果には個人差が大きいことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の講演会においては、主体的な学びになるように実施形態を工夫することで、全生徒の参加意識の向上を図る。 学習の準備と振り返りが効果的に行われるようように改善を検討し、生徒の自発的な学びへつなげていきたい。
	○ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア精神の育成 地域や社会における自己の役割の認識 	<ul style="list-style-type: none"> 自発的・主体的な活動を通じて地域や社会に貢献できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回以上校外清掃活動の機会を設け、全校生徒で実施する。 募金活動や献血などへの参加の呼びかけを生徒会で行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に校外清掃活動を行うことができた。 献血の講話を企画することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間をうまく活用して生徒を動かすことで、奉仕の心を育むように工夫する。 清掃活動や募金活動については回数を増やして対応できるよう、計画的に運営していきたい。
	○さがを誇りに思う教育	<ul style="list-style-type: none"> 郷土愛の育成 地元へ貢献する意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 佐賀県の歴史・自然・人・成り立ちについて知る。 佐賀七賢人等の先人達の功績について知り、幕末の役割について理解を深める。 地域社会の課題について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3時間以上の学習機会を設け、全校生徒で佐賀県についての理解を深める。 校内での講演会や幕末維新博覧会見学により、さがへの愛着意識を高める。 可能な範囲で、各教科の授業内容や諸活動と関連づけて指導する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に実施でき、一定の成果を上げられたことはよかった。 今年度開催された「幕末維新博覧会」に参加し、佐賀出身の先人たちの功績に興味をもって学習できた。また、明治維新について理解を深めることができた。 講演会を実施し、佐賀の自然についても関心を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も時間確保や講師選定などの課題が残る。 次年度の内容についてはじっくりと検討し、生徒にとって役立つものになりたい。
⑤心豊かな人間(知・徳・体)バランスの取れた生徒の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめ問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止、早期発見・早期対応 いじめを許さない意識の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 細かい観察や調査等をおおしいじめに関する問題や課題を見逃さないようにする。 ホームルーム活動等において、いじめは許されないという意識を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者にいじめアンケートを年3回実施する。 全職員が情報交換を行い、一致協力して指導に取り組める状況維持する。 日頃から生徒への声掛けを行い、きめ細かな関わりを持つ。 挨拶を推奨する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートは、計画通りに生徒へ年3回実施した。 普段から生徒の言動に注意し、細かい変化にも敏感になっておくことが大切である。 日頃の声かけ、挨拶はおおむねできた。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートは、生徒へ年3回、保護者へ年2回の実施を継続したい。 自分から表現してこない生徒も多いので、教師側からの積極的な声かけ、会話は今後も積極的にに行う。 生徒指導部と協力して、日々のあいさつ運動を継続していきたい。
	●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康づくりへの取組 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心の健康維持のための助言や援助を行う。 教育相談体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 命の大切さや思いやりの心をテーマにした学びをホームルーム活動や全校集会等で実施する。 スクールカウンセラーによる「心の授業」を実施する。 悩みについてのアンケートを年2回実施し、問題を抱えている生徒には、スクールカウンセラー等による教育相談を受けさせる。 職員間での情報交換を随時行い、問題を抱えた生徒には全職員で迅速に対応する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ研修や人権・同和教育研修の中で、思いやりの心を学ぶ機会があったことはよかった。 スクールカウンセラーの協力で、今年度も「心の授業」を実施することができた。 生徒の悩み相談についてはスクールカウンセラーにつきまが事ができ、継続してアドバイスを受けることができた。 担任との業務で、生徒との個別相談が実施できなかった。 生徒情報交換会はひと月からふた月に1回のペースで実施し、共通認識を持って取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部、教務部と協力して、今後も「心の教育」に取り組んでいく。 スクールカウンセラーの担当継続を依頼し、次年度もぜひ「心の授業」を実施したい。 生徒との個別相談が実施できるように、工夫しながら取り組んでいきたい。 業務の兼ね合いでなかなか全担任がそろえる機会がないが、生徒情報交換会の毎月実施を目指したい。
	●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 自己管理能力の一環としての望ましい食習慣の定着 健康の維持増進 	<ul style="list-style-type: none"> 給食を教材とした食育を実施する。 食に関する指導を充実させ、規則正しい食習慣を身につけさせる。 毎日朝食を摂る生徒50%、給食の喫食率85%を目指す 各健康診断の受診率を向上させるとともに、事後指導を徹底する。 基本的な生活習慣や食生活の実態を把握し、「早寝・早起き・朝ご飯」のサイクルを確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動の時間を活用して食育講話を実施する。 「給食便り」の作成・配布、食品に関する掲示等に取り組む。 担任と連携しながら生徒一人一人の健康状態の把握に努める。 保護者や学校医、関係機関と連携を図りながら、健康教育や保健指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> (給食について) 喫食率の向上のために、メニューの工夫や様々な企画(マナー給食・おにぎり作り)など積極的に取り組んだ。 食への意識が高まり、教室居残りが減った。また、残さず食べるようになり、目標の喫食率を上回ることができた。(喫食率86.2%) 食育アンケートの結果、朝食の喫食率が40%で昨年より喫食率が上がった。今後とも規則正しい食習慣として指導していきたい。 (保健関係について) 定期健康診断検診率は、4月当初出席者を除き100%実施できた。事後指導と治療勧告を各健診実施直後または三者面談時に配布し、保護者にも受診を勧めた。 歯科受診率は11%で昨年度より低下した。今後とも事後指導を徹底していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> (給食について) 少しずつ成果が出ていると考えられるので、継続して取組を行っていく。朝食の喫食率については、朝食の捉え方をきめ今後とも継続して指導していく必要がある。 (保健関係について) 健康診断を確実に実施し、生徒自身が健康面に目を向け、適切に判断できる力をつけられるように指導する。また、治療勧告については継続的に呼びかけ受診を勧める。 保護者等との連携も視野に入れて健康教育・保健指導などを行う。

本年度の重点目標に含まれない評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○ICT利活用教育	・ICT機器の効果的かつ適切な活用	・授業の「導入・展開・まとめ」などで電子黒板の活用を継続し、学習用PCの活用の幅を広げ、「わかる授業」80%以上に繋げる。	・様々な教材に取り扱う中で、機器の機能を積極的に活用する。その結果をフィードバックし、改善を図る。 ・実践を通して、効果的であった学習用PCの活用事例を整理し共有する。	B	・電子黒板は利用頻度が高く、授業の質の向上につながった。 ・学習用PCを活用した授業の回数が伸び悩んだことが課題である。 ・学習用PCの活用促進については、授業の準備にかなりの時間を要することがハードルになっている。 ・PC活用の反面、生徒の読解力、表現力、記述力等が低下する懸念がある。	・生徒の理解を助けるために、効果があると思われる場面でのPC活用を積極的に進めていく。 ・校務全体を見直し、行事の精選と働き方改革を推進することで、業務の効率化を図る。 ・各教科でのPC利活用を進めるとともに、従来の読み書き算盤の力も伸ばしていきよう工夫する。
	○人権・同和教育	・人権・同和教育の推進	最新かつ的確な情報に基づいて指導を行い、差別を許さない態度を育成する。	・年2回の人権・同和教育研修会(生徒対象を含む)を実施する。 ・各種人権・同和教育の研修会に積極的に参加し、資質向上に努める。	B	・進路保障に関するHR活動、およびLGBTなど様々な人権問題についての生徒向け研修会は計画通り行うことができた。 ・同和問題についての内容は、生徒向け研修会に十分に含めることができなかった。 ・進路保障学習会や研究大会に予定通りに参加できた。 ・予算がないため講師選定が限られてしまう。	・HR活動での人権・同和教育の生徒向け研修には十分な準備が必要だが、生徒の将来に役立つようにさらに検討して内容を充実させていきたい。 ・校外での研修会に教職員が積極的に参加するように促す。 ・今後ともできる範囲で講師を探し、様々な研修ができるようにしたい。
	○生徒指導	・生徒指導措置数及び交通事故件数 ・高校生らしい身だしなみ ・社会生活におけるルールやマナーの遵守	・生徒指導措置数や交通事故数の減少を目指し、それぞれの未然防止に努める。 ・発生した事案については早期対応を心がけ、速やかに再発防止策を講じる。 ・清潔で爽やかな高校生らしい身だしなみを促す。 ・場面に応じたスマートフォン等の使用マナー指導を行う。	・面談や集会を行ったり、配布物を渡したりして、指導方針の周知を促す。 ・気になる生徒については連絡会や職員会議等を通して情報の共有化を図る。 ・交通講話、校門での立哨指導、街頭での巡視等を行うことで、交通安全・生活安全の意識を高める。 ・校内で使用着用する装飾品や服装・頭髪及びスマートフォン使用等についての制限を示す。 ・生徒会による啓発を促したり、自主的な改善のための猶予期間を与えたりしながら、生徒への周知と理解の徹底を図る。	B	・特別指導等の生徒指導措置数は「1」であった。 ・交通事故件数は「0」であった。 ・校外での研修会や連絡会等での情報を全職員に伝達し共有した。 ・頭髪については、全職員の協力のもとで粘り強く指導できた。修正期限を設定して自発的に改善するように促した。 ・校内でのスマホ使用については一定の基準を設定しているが、生徒の理解や実践状況には課題が多い。	・生徒指導措置数や交通事故件数が「0」になるように継続して指導を行ってきたい。 ・校門でのあいさつ指導は生徒の実態把握に大いに役立っているので今後とも継続して行いたい。 ・各種研修会や講演会だけでなく、街頭巡視等で得た情報も職員へ速やかに伝達し、効果的な指導ができるようにする。 ・各種講演会は、生徒の実態に応じた講師を招聘し、実生活で速やかに実践できるようにしたい。
学校運営	○情報管理	・情報機器を利用できる環境の保持	・機器に障害が発生しないように管理する。 ・セキュリティに関するルールを徹底する。	・メンテナンスが必要な機器が発生した場合、保守業者との連絡を迅速に行う。 ・運用ルール、手引き等の規定を遵守する。	A	・情報セキュリティに関するルールについては、全職員で遵守することができた。 ・今年度は大きな問題やトラブルがなかったことはよかった。 ・PC機器のトラブル発生時にはICT支援員と連携をとり、迅速に対応することができた。	・今後も引き続き、運用ルール等の遵守ができるように啓発していきたい。 ・情報管理についてはさらに職員の意識向上を図り、生徒への指導に活かしていきたい。
	○学校経営方針 開かれた学校づくり	・本年度の重点目標の周知 ・来校機会の増加	・生徒、保護者、職員への重点目標の100%周知を目指す。 ・来校する機会を増やし、本校への理解を深める。	・後援会総会、学級懇談会等で周知を図るとともに、具体的な取組を説明する。 ・11月の学校開放週間だけでなく、夜の運動会や県生徒生活体験発表大会などの案内を行い、来校機会とする。	B	・後援会総会、三者面談等で保護者に本年度の重点目標等について説明した。 ・11月の学校開放週間だけでなく、夜の運動会や県生徒生活体験発表大会等の案内を行なったが、来校者は少なかった。 ・学校だよりをほぼ毎月発行し、校内行事や生徒表彰などについて外部に発信した。	・学校教育目標や重点目標は機会があるごとに周知を図っていく。 ・各行事については、早めの案内、繰り返しの案内を心掛ける。 ・保護者からの遅刻や欠席等の電話連絡の際も、行事参加についての呼びかけを行う。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務効率化の推進 ・教職員間の連携促進 ・教職員の意識改革	・効率的な業務遂行の工夫を行い、生徒と向き合う時間を確保する。 ・組織的な運営を心掛け、業務の分散化を図る。 ・明るく元気な職員室を維持する。 ・教師力の向上に努める。 ・服務規律の保持・徹底を図る。	・職員間でのコミュニケーションを大切にし、業務情報を共有するとともに、フォロー体制を強化する。 ・校内LANやSEI-Netを利用し、資料のやり取り、職員間の連絡、統計や文書作成等をさらに効率的に行う。 ・環境整備とともに、生徒および職員間の元氣な挨拶を心掛ける。 ・日常の授業見学や各種研修会への参加を積極的に行う。 ・服務やモラル等の職員研修会を計画的に実施する。	B	・小回りがきく環境であり、日常的な情報交換は十分に実践できている。 ・職員間の文書やり取りや諸連絡はSEI-Netや校内LANを活用して効率化と業務時間の短縮に努めた。 ・校門での生徒へのあいさつ運動は一定の効果があったと考えられる。 ・教職員の教科指導力や授業力向上の機会については、ほぼ外部での研修会等に限定された。 ・職員への各種研修会は、予定していたものは計画どおりに実施できた。	・生徒情報交換会については時間が十分な時間確保とともに、事後に効果的な指導ができるように、全職員での情報共有を継続していく。 ・教職員のPC利活用スキルについては、できるだけ研修の機会を設けていきたい。 ・授業の工夫改善については、生徒の実態に応じた適切な指導となるように、引き続き努力していく。 ・「学びの基礎診断」の導入が、生徒にとって効果的なものになるように、全教職員の共通理解のもとで進めていく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

職員間の協力や外部機関との連携により、生徒一人ひとりに対するきめ細かい指導が定着し、少しずつ成果が表れてきている。また、生徒会が中心となって、体育祭、クラスマッチ、予備会等の各行事を企画運営していく中で、生徒の自己肯定感、連帯感、学校への帰属意識が次第に高まってきた。加えて、自主企画での修学旅行の実施なども、生徒のコミュニケーション力や社会性を向上させる実践的な学びとして効果を上げている。このように生活体験の幅を広げながら、学習意欲の向上のための取組や授業内容の充実による基礎学力の定着を図ることで、より一層キャリア教育を推進していくことが重要である。

次年度は新学習指導要領の先行実施期間に入り、「学びの基礎診断」の取組もスタートする。各授業や特別活動の工夫改善に取り組み、今後も積極的にレベルアップを図るとともに、家庭や地域、専門機関との連携を通じて生徒自身が成長を実感できるようしていきたい。これを継続していくことが生徒の自発的に学ぶ姿勢を醸成し、キャリア選択の幅を広げることにつながるかと考えられる。これからは生徒の「生きる力」の習得に向けて、職員が一致団結して指導にあたり、何事にも主体的に取り組む生徒の育成を目指したい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目